

パネル発表「私たちのウサギ グリとグラ」

台東区立富士小学校 飼育委員会

1 2羽のウサギ

昨年、長年飼っていたウサギのデールを亡くしました。この悲しい体験からたくさんの方のことを学びました。その気持ちを大事にしてほしいということで、獣医師さんから、2羽の赤ちゃんウサギをいただきました。

全校で名前を公募し、「グリとグラ」と命名しました。

小さかったグリとグラも大きく成長して、今は楽しみながら飼育活動をしています。

2 飼育委員会の活動

本校の飼育委員は、5、6年生の18人で活動しています。

世話は、各クラスが一週間交替で行います。役割分担をしたり、6年生が5年生をフォローしたり、協力しながら行っています。

活動内容は、主に3つです。

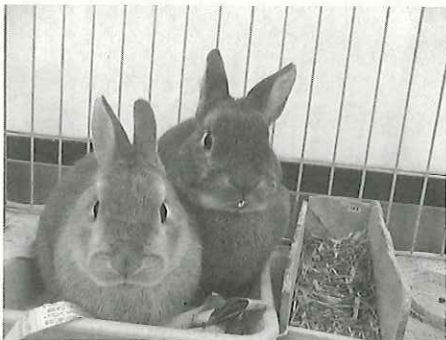
- ① えさやりと水替え
- ② ウサギ小屋とケージの掃除
- ③ ウサギの健康チェック

健康チェックでは、体重を測って記録したり、糞の様子を観察したりしています。また、グラは、歯が伸びてしまう病気のため、そのチェックもしています。

3 これからの課題

(1)長期休業日の世話

長期休業中は、児童の登下校の安全確保がとれにくい現状で、教職員で世話をしています。年末年始や大型連休も含め、だれが世話をするのが課題です。家庭へ持ち帰り、世話をすることも考え中です。



(2)全校生とのふれあい

ウサギの世話が慣れてきたので、今後、全校生とのふれあう機会をつくることです。今は、飼育委員がほとんど関わっていて、その他の子供はウサギに対する興味はあるが、意識が薄いことが現状です。全校児童が約600人という大きな学校ですが、全校集会や学年集会・各学級などで「グリとグラ」にふれ合う機会を積極的につくることが大切だと思います。

4 飼育を通して子供たちが学んだこと

最初は、トイレの掃除が汚い、抱くのが怖いなど、ウサギのお世話を戸惑っていた子供たちですが、今は愛着をもって抱いている姿を見ると、ほほえましく思います。

『今日は、歯が伸びてきて機嫌が悪い。』『食欲がある。』などウサギの気持ちを考えて飼育しているようです。また、毎日の世話が面倒だと思っていた子供も『自分たちが世話をしなければウサギたちが悲しい思いをする。』という思いから、夏休みなども責任をもって仕事をしていました。

飼育活動を通して、「命の大切さ」を学ぶと共に、相手を思う優しい気持ちも育きました。

